

ベジタブル ライフ



イラスト：小林裕美子

シントウガラシ (シントウ)

～食べ方いろいろ「甘トウガラシ」～

シントウのプロフィール

- 【分類】ナス科トウガラシ属
- 【原産地】中南米の熱帯地方
- 【おいしい時期(旬)】夏(6～10月ころ)
- 【主な栄養成分】β-カロテン、ビタミンC・E、カリウム、ビタミンB6など

解説：KAORU

シントウのいろいろ

しとうがらし

緑色で5cmほどの細長い形。見た目は青トウガラシに似ており、通常、辛味はほぼなく、特有の香りとほろ苦さが特徴



伏見甘長とうがらし

15cmほどもある細長い甘味種の京都府伏見地区で江戸時代から作られており、京野菜の一つの現在でも主に関西で栽培



万願寺とうがらし

10cmほどの大型の甘味種の京都府舞鶴市万願寺地区で栽培されていたことが名前の由来の京野菜



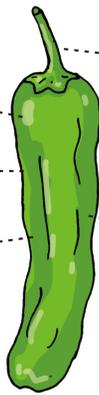
ひもとうがらし

10cmほどの細長いトウガラシの「サイヤインゲン」に似た形の丸ごと炒め物や天ぷら、煮物などにも利用される主に奈良県で栽培



見分け方

- きれいな緑色
表面に張りがある
- 黒く変色したり
しぼんでいない
- 硬く感じるものは
鮮度が落ちている
場合も



ヘタがしっかりしている

触れると軟らかく弾力を感じる

育ち過ぎると食味が落ちる

辛味の強いものが
粉れている!



要チェック

- 辛味のあるシントウの特徴
- ・形がひびつ
 - ・種が少ない
 - ・全体が黒みを帯びた緑色

シントウの力

カプサイシン

脂肪燃焼や血行を促進する作用がある。辛味種のトウガラシに多く含まれる成分

注目成分



ビタミンC

風邪予防や疲労回復、肌荒れ予防などに効果的



その他

血圧の上昇を抑える作用のあるカリウム、エネルギー代謝に関わるビタミンB6も比較的多めに含有

ビタミンE

老化予防、血行促進、冷え改善、美肌などに役立つ強い抗酸化作用があり、β-カロテンやビタミンCと一緒に取ると、相乗効果が期待できる



β-カロテン

体内でビタミンAに変換され、髪の健康維持、粘膜や皮膚の健康維持、視力維持、喉・肺など呼吸器系統を守る働きがあるといわれている。抗がん作用にも期待できる

保存方法

新鮮なうちに食べるのが一番おいしい!

冷蔵庫で保存
4～5日を目安に
使い切ろう!



数本まとめて新聞紙またはパーペーパー付きの保存袋かポリ袋に入れて野菜室へ

暖かい環境で育った野菜なので、冷蔵庫に長時間入れておくと低温障害を起こし、傷みが進み風味や食感が落ちる

冷凍保存
保存目安
1か月程度

水洗った後、水気を拭き取り、冷凍用保存袋に並べて入れて冷凍庫へ

ポイント

1本ずつ凍ってから保存袋などに入れて冷凍のバラバラになりやすい

楽しみ方・食べ方のコツ

- 1 洗ってしっかり水気を切るか拭き取り、へたを切り落とす
- 2 縦に切り込みを入れるか、竹串などで穴を開ける



ポイント

そのまま加熱調理すると破裂する恐れがあるので、必ず切り込みを入れるか穴を開ける。種ごと食べられるが、時々辛味が強いものに当たることも気になる場合は種を取り除いてから調理する



種を取る際は、半分カットして開口面から種を取り除くか、丸い形を残す場合はつまようじや細いマドラーなどを使って種を出す

調理法



生 伏見とうがらしや万願寺とうがらしは、みそやコチジャンを付けてかいると、歯触りも良く美味

炒め物



油との相性が良好のジャコ、ごま、おかかなどと油で炒め、酒、みりん、しょうゆなどを加えて炒め煮に。強火でさっと炒めると食感や風味が良い

煮物



さっと炒めてから煮る炒め煮が一般的。ジャコなどと煮物にするとご飯に合うおかずにおくたたくに軟らかく煮てもおいしい

揚げ物



シントウや万願寺とうがらしなどは天ぷらや素揚げに。素揚げをだしが効いた調味液に浸して、揚げたしにしても美味

焼き物



万願寺とうがらしや伏見とうがらしは、炭火で素焼きしてしょうがじょうゆやかかつお節を掛けるのが定番

シントウのヒミツ

歴史

15世紀にコロンパスによって中南米からスペインにもたらされ、その後欧州の涼しい環境で辛味の少ない品種が誕生したといわれている

16世紀に日本伝来

江戸時代に辛味のあるトウガラシの栽培が始まる

明治時代以降に甘味種が導入



名の由来

漢字では「獅子(し)唐辛子」と書く。起伏のある形が獅子の頭に似ていることが由来



未熟な野菜

シントウもピーマンと同様、未熟な緑色のうちに食用とする野菜

完熟すると赤くなる

